

## 委員意見一覧

No.	基本施策番号	該当する箇所	担当課名	素案のページ	意見概要	対応方針
①	—	—	企画政策課	—	物事の継続性が重要だと思う。そのため、指標を変更した意図が分かるような表現にすべき。	◆修正有り（別紙：【（案）資料編】で対応）
②	1-2	成果指標	こども政策課	4	成果指標の中に「子育て支援の拡充により結果的に若い子育て支援の住民が増える」といった積極的な指標を入れられないか。	◆修正有り（別紙：【資料3】重点施策で対応）
③	1-2	保育の受け皿の確保等、子どもたちが健やかに育つ環境の整備を図ります	こども政策課	5	子育て支援の施策の多くが家庭支援、子育てをする側の支援であるため、可能であれば子供たち及び子育てに関わる人達の文言を考えていただきたい。	◆修正有り
④	1-3	認知症高齢者声かけ訓練参加者数	高齢者福祉課	6	実際にどれだけ声かけをしたのかというさらに深掘りする指標も入れた方が、より成果に結びついた指標になるのではないか。	修正無し →「実際に認知症高齢者へ声かけを行った件数」の測定は、毎年度行っている市民意識調査（対象者1,400人）では難しく、他の方法による測定も困難であるため。
⑤	1-3	—	企画政策課	7	佐倉市は暑くて湿気が多く熱中症になりやすい地域で高齢化が進んでいる中、一人暮らしの高齢者への声かけも重要だが、包括的な支援、クーリングシェルターといった横ぐし的な取り組みも必要だと思う。	◆修正有り（別紙：【資料3】重点施策で対応）
⑥	1-3	生きがいつくり・介護予防を推進します	高齢者福祉課 (こども政策課)	7	子供も高齢者も「場」がないのでそのような取り組みも横断的に入れたらどうか。高齢者が長年の知見等を子供に教えるような機会は高齢者の生きがいにつながるので、うまく連携し、教育とも結びつけていければいい。	◆修正有り
⑦	1-3	—	企画政策課	7	市として人口減少という課題があるが、子育て、高齢者の施策が大事だと思う。佐倉市の適正人口や子育て世代の割合などがあると思うので、そういった目標を設定してほしい。高齢者については「元気で長生きしてほしい」というのが基本なので、地域でも高齢者が集まれる場所の確保なども大事だと思うし、目標値はある程度持っていた方が良くと思う。	◆修正有り（別紙：【資料3】重点施策で対応）
⑧	2-1	住み続けたい公共交通景観	都市計画課	12	都市計画・公共交通について、成果指標の算出にあたり市民意識調査を使用しているが、その有効性も含めて検討すべき。	修正無し →都市計画・公共交通・景観についての取組は、特定の対象者をターゲットとした個別事業に関する施策ではなく、広く市民全体にかかわるまちづくりについての施策であり、市民・地域に対して関心を持っていただくことを期待しているものである。このため、取組の成果を確認していく上では、市民の意識の状況を指標として捉えていきたい。
⑨	2-3	通学路改修箇所数	道路維持課	16	成果指標の通学路改修箇所数だが、目標箇所数に加えて達成率などの割合も記載しておくべきだと思う。	◆修正有り

⑩	2-3 2-5	①道路環境（3指標：都市計画道路、道路舗装、通学路） ②上下水道（1指標：排水ポンプ）	①道路建設課、道路維持課 ②治水課	16	現状値の記載がない指標について、入れることを検討してほしい	◆修正有り
⑪	2-4	市民協働・公民連携によるみどりの維持管理や利活用を促進します	公園緑地課	19	施策③の市民協働の維持管理に関して、公園保全ボランティアなどはシルバー層を中心に意欲的な人がいるだろうが、取組の存在や参加方法が分からない人も多いと思うため、広報も含めボランティア誘引についても加えてほしい。	修正無し →こほう佐倉やホームページは、ターゲットとするシルバー層に情報を届けやすいため。 なお、「施策③ 市民協働・公民連携によるみどりの維持管理や利活用を促進します」において〈市民・地域への期待〉の中で、「身近な公園や緑地に関心を持ち、維持管理に協力すること」を掲げているので、中期基本計画の変更は行わないものとする。
⑫	2-6	災害に対して備えない市民の割合	危機管理課	22	右肩上がりの表記となるよう「災害に対して備えない市民の割合」よりも「備えのある市民の割合」にした方がよい。	◆修正有り
⑬	2-6	災害に備えた体制を整備します	治水課 生活環境課	23	施策④災害に備えた体制の治水対策について、千葉県だけでなく民間や地域全体での連携を図った取組を検討してほしい。	◆修正有り（別紙：【資料3】重点施策で対応）
⑭	2-7	①人口1万人当たりの犯罪発生件数 ②交通事故発生件数	危機管理課	24	犯罪発生件数・交通事故発生件数が減少しているという表記より、限りなく0に近づけるといった表記にすべきではないか。	修正無し →現状値は警察所管の情報であるとともに、目標値についても警察で、犯罪及び事故の発生件数の減少を目標に掲げていることから、整合性を図り現状の表記といたします。
⑮	2-9	市役所の温室効果ガス（CO2）排出量	生活環境課	28	施策4でゼロカーボンシティの実現を掲げているので、市全体の温室効果ガス排出量を目標にならないか。	◆修正有り
⑯	2-9	環境基準適合率	生活環境課	28	環境基準適合率について、わかりやすい表現をしていただきたい。	◆修正有り
⑰	3-1	地域職業相談室における市内紹介件数の就職率	商工振興課	30	地域職業相談室における市内紹介件数の就職率の取り扱いについて	◆修正有り
⑱	3-2	競争力のある農林水産業を推進します	農政課	33	①農業施策が中心になっているが、森林関係の施策がないように見える。森林環境譲与税も発生する中で、森林の整備についてどう考えているのか。 ②竹林も計画に組み込んでいただきたい。	①：◆修正有り ②：修正なし →竹林については、森林環境譲与税により整備することができないため
⑲	3-3	年間観光入込客数（イベントを除く）	佐倉の魅力推進課	34	「観光文化施設等入込客数」にした方が分かりやすいのではないか。	◆修正有り
⑳	4-1	学習状況調査における平均正答率	指導課 教育センター	38	成果指標記載の活用力とはどういうことか。	◆修正有り

⑳	4-1	豊かな人間性を育む教育に取り組みます	指導課 教育センター	39	最近改定された学習指導要領で挙げられている「持続可能な社会の作り手を育成していく」という視点が欠けていると感じた。多様化した課題に対して、学校の先生だけでは担いきれないので、教職員の指導力向上とともに、地域の色々な団体の力を借りる必要がある。ぜひ地域の団体との連携も取り組んでいただきたいし、そのひとつの手がかりとなるのが佐倉学だと思うので、佐倉学の担い手の育成も入れるとおもしろいのでは。	◆修正有り
㉑	4-1	学力向上・学習内容の充実に取り組みます	指導課 教育センター こども政策課	39	今年から「幼保小の架け橋プログラム」が取り組まれており、そういった内容も主な事業内容に落とし込めれば具体的な実行にもつながるのではないかと思います。	◆修正有り
㉒	4-1	豊かな人間性を育む教育に取り組みます	指導課 教育センター	39	体力テストは学校教育に含まれないのか。子供の体力向上の一環であると思うが含まれないのが素朴な疑問。	◆修正有り
㉓	4-2	トイレの洋式化実施校数	教育総務課	40	実際のトイレの個数をもとに、洋式の割合を指標にした方がよいのでは。	◆修正有り
㉔	4-2	・学校ボランティアに協力したことがある市民の割合 ・学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合	学務課 教育センター	40	現状値が前回より下がったことにより、目標値も下方修正したようだが、せめて前期と同程度の目標にすべきではないか。	◆修正有り
㉕	4-2	・地域に開かれた学校運営を行います ・安心して学校に通える環境を提供します	学務課	41	課題の「通学路の安全」、八街でも大きな事故が発生したこともあり意識していると思うが、登下校の安全見守り活動は、施策2、施策3のどちらに入れるべきなのか。	◆修正有り
㉖	4-3	公民館を年1回以上利用している市民の割合	社会教育課	42	稼働率みたいな指標はいかがか。	修正無し →指標の例としては、利用団体数、利用件数、利用者数、集会・行事講座等の開催状況及び参加状況、利用者の満足度（各種サービス、利用環境等）等がありますが、公民館の利用は、部屋の貸出以外に、展示の見学、学習の場としての活用、図書の利用、視聴覚資料及び機材の貸出など、さまざまな公民館の利用方法があることから、部屋の稼働率だけではなく、子どもから大人まで、あらゆる世代の方々が利用していることが確認できる、この指標を採用したい。 なお、稼働率につきましては、公民館は1時間単位での貸出となっており、午前2時間、午後2時間の利用があった場合、8時間の開館の場合、50%となっている現状から、増加する目標とすることが困難である。類似指標としては、利用日率（1日のうち、施設を1団体利用した場合は100%）がありますが、現状は100%または100%に近い実績であり、目標値は100%を目指すこととなります。
㉗	4-3	図書館を年1回以上利用している市民の割合	社会教育課	42	市の図書館が充実しているという行政の意気込みというか、そういう発信側の指標があってもよいのでは。	修正無し →指標の例としては、従来から用いられている貸出冊数や利用者数に加え、レファレンスサービス件数、ホームページアクセス数、集会・行事講座等の開催状況及び参加状況、利用者の満足度（各種図書館資料、各種サービス、利用環境等）等がありますが、図書館の利用は、資料の貸出以外に、おはなし会への参加、学習の場としての活用、自宅でも本を読むことができる電子書籍の利用など、さまざまな図書館の利用方法があることから、引き続き、子どもから大人まで、あらゆる世代の方々が利用していることが確認できる、この指標を採用したい。なお、図書館サービスの内容につきましては、館内掲示、ホームページなどを活用し、積極的に情報発信に努めてまいります。
㉘	4-3	市民の生涯学習を推進します	学務課 指導課 教育センター 企画政策課	43	4章全体にいえることだが、地域への愛着を高めるというのは重要だと考えている。学校給食の充実についても結びつけながら、最終的にはシビックプライドの醸成までいければいい。若い世代に結びつけられれば、もし転出してもUターンやふるさと納税などにつながると思う。	◆修正有り

⑩	4-4	①青少年健全育成団体の取組について、「よくなった」、「まあまあよくなった」と回答した市民の割合	こども政策課	44	青少年育成団体の取組が良くなったかどうかイメージしづらいので、認知度などで指標を工夫できないか	◆修正有り
⑪	5-5	電子申請サービスの利用手続数	情報システム課	56	手続数というのがわかりづらいので、市民が見た時にわかりやすい表現にしてもらいたい。	◆修正有り
⑫	5-6	施設のあり方の方向性を決定した件数	資産経営課	58	指標の「施設のあり方の方向性を決定した件数」でいう「決定」とは。	◆修正有り
⑬	—	—	事務局	—	Well-beingといった市民の幸福度のような数値を用いて、佐倉市の満足度を向上させるような取組をしていただきたい。	別紙：【資料3】重点施策で対応